若手社員の1日

東京水道

水道技術本部 管路整備部 本管設計課　**小松 奈津美さん**

東京の水を支える仕事への挑戦

■「東京」を支える仕事

大学時代は理工学系学部で水環境や水質分野を専攻したという小松さん。水が社会でどのように活用されながら循環しているのかを学ぶうち、都営水道が全国でも高水準の水質管理を実現していると知り、次第に「自分が育った東京の水道を支える仕組みに携わりたい」と考えるようになった。

中でも、東京都水道局のパートナーとして現場を支え、「日本最大級の水道トータルサービス会社」を宣言する東京水道株式会社で、水質検査を担う環境職のインターンシップに参加した。社風に触れつつ、勤務地が都内に限られることにも魅力を感じ、選考に進んだ。ただ、選んだのは環境職ではなく土木職。「大学で水質を学んできたからこそ、視点や技術の幅を広げた方が面白いのではないかという恩師の助言に背中を押されました」と、当時の決断を振り返る。

■専門外から設計者に

入社以来3年間、現在の本管設計課で経験を積んでいる。

都営水道では約2万8000キロメートルに及ぶ配水管を管理しており、首都直下地震に備えた耐震継手管への計画的な更新が主要施策となっている。

小松さんが担当するのは、その中でも配水系統の基幹となる管路の「配水本管」の設計だ。

「地中には水道管だけでなく、下水道やガス、電気、通信などの他企業管が入り組んで埋設されています。そうした施設に影響を与えず、また工事開始後の手戻りが生じないようにするためには、設計段階での綿密な調整が欠かせません」と重要性を説明する。

オフピーク通勤制度を活用し、朝の混雑を避けた8時から16時45分までが勤務時間。集中して設計図面の確認や、他企業・道路管理者との協議を進める。課内で進捗や課題を共有しながら、およそ1年かけて設計図書をまとめ、無事に起工した時の達成感は大きいという。

一方、終業後や休日は、しっかりと体調を整え、趣味のサッカーや野球観戦を楽しんでおり、ライフワークバランスを意識した働き方を実施している。

専門外からスタートしたが、「新入社員研修やチューター制度、充実したマニュアル類など教育体制が整っており、知識がない状態からでも必要な知識や技術が習得できています」と実感。1年目から案件を担当したのには苦労もあったが、「協議には毎回緊張しましたが、先輩が説明の音読練習に付き合ってくれるなど、一つひとつ親身に、丁寧に教えてもらいました」と振り返る。

その経験を通じた学びが、今も仕事の基本となる。「東京都の水道という重要なインフラを担っている以上、小さなミスが大きな影響につながる可能性があります。不安や疑問、判断に迷うことは、一人で抱え込まず早めに相談するよう心がけています」。

現在は、道路を大規模に掘削できない現場で採用される「パイプインパイプ工法」での設計を担当。まだまだ習得したい工法があるといい、「もうしばらく今の部署で経験を積みたいです」と笑顔を見せる。

■安定と社会貢献を手に入れるキャリア

都内出身者でも家賃補助が受けられるほか、1年目から有給休暇20日、夏季休暇5日が付与されるなど福利厚生は充実している。

水道局と連携し、台風被害を受けた八丈町で応急給水・応急復旧支援を行うなど、社会貢献度の高さも明白だ。

小松さんは「水道管は地中にあるため成果は目に見えにくいですが、まちと暮らしを支えている大きなやりがいがあります。需要が途切れることのない仕事であり、水道局からのさらなる業務移転も予定されるなど、安定と成長が両立した企業です。少しでも興味があれば、ぜひインターンシップに参加してみてください」と呼びかけている。

充実の教育体制で経験を積んで

綿密な調整を踏まえ設計に取り組む

休日は趣味のスポーツ観戦でリフレッシュ

1日のスケジュール

8:00	出勤 コンサルタントが提出する図面のチェック、課の「朝会」で進捗共有
12:00	昼休憩
13:00	他企業や道路管理者らとの打ち合わせ
16:00	打ち合わせの議事録作成
16:45	退勤

東京都下水道サービス

管路部 中部エリア管路課 渋谷事業所 主事　**中島 怜士さん**

社会貢献の実感と成長の機会

■下水道への興味を原点に

TGS入社

東京都下水道サービス（TGS）は、東京都の政策連携団体として設立され、以後、40年以上にわたって東京都下水道局との一体的な事業運営を行い、下水道サービスの維持向上に努めてきた。

設立時は24人であった社員数も、現在では約1000人にまで拡大している。

TGSの職種は、大きく分けて事務職と技術職からなる。うち技術職は、下水道管の維持管理や設計・施工管理を担う土木職、水再生センター（下水処理場）・ポンプ所等の維持管理を担う設備職、水質管理を担う環境検査職で構成され、都民の生活に不可欠な下水道を支えている。

中島怜士さんは、土木職として渋谷事業所に配属され、今年で入社3年目。学生時代は土木系の授業の中で、下水道の管きょ工学や流量計算についても学ぶ機会があり、「普段はなかなか目に触れる機会はないが、実は人々の暮らしを地下で支える重要なインフラ」である下水道に自然と興味が湧いたという。都内で働きたいという思いもあり、下水道界のリーディングカンパニーであるTGSの門を叩いた。入社後のOJTでは、図面や実際の施設を見ることができ、一層理解が深まったという。社会人としてのスキル等も研修を通して体系的に学ぶことができた。

■住民からの感謝の言葉で感じた仕事のやりがい

主な業務は、下水道管の維持管理や電話によるお客さま対応。入社2年目には、老朽化したマンホールの上部を機械施工にて更新できる人孔上部補修工法の工事監督といった業務も担当するようになった。

工事を完了した際には、大きな達成感を味わったことが印象に残っているという。

入社3年目となる現在では、公共下水道の管路施設の入り口に当たる「汚水ます」の新設・移設・改修に伴う工事申請対応から現場確認、工事完了検査までの一連の業務を担当している。住民のすぐそばで仕事をするため、下水道の詰まり等が解消した際には直接感謝の言葉をもらい、自身の仕事が地域の暮らしに役立っていることを実感できているという。また、問題を早期に発見して対応することで住民生活への影響を防ぐことができるので、責任の重さと仕事のやりがいを日々感じているという。

都民生活を守る大きなやりがい

現場とデスクワークで視野を広げる

■現場と事務所を行き来しながら成長を実感

現在の業務で、中島さんは現場と事務所の両方で活躍する。朝礼後に現場に出て、昼食時に事務所へ戻り、午後も現場確認を行う、もしくは事務所で資料作成や工事申請処理等を行う。現場とデスクワークの両方を同時に経験できることにより、視野が広がることがTGSの仕事の魅力という。

事務所では、経験豊富なベテラン社員、年齢が近い先輩社員のそれぞれから丁寧に仕事を教えてもらえる社風にも恵まれている。加えて、業務で必要な知識の習得には、資格取得支援制度や通信研修制度も充実しており、多彩なメニューの中から自分が学びたい内容を選択できると話す。

また、年次有給休暇の取得についても1時間単位で可能となるため、中島さんは家族や友人との予定など、柔軟に活用しているようである。中島さんは、将来的には後輩にしっかりと仕事を教えられる存在となることを目指しており、こうした社風や社内制度等を十分活用して私生活との調和を図りつつ、さらに知識や経験を積みたいと意を強くしている。

そして、TGSの仕事について「下水道の仕事は目立つものではないかもしれません。けれども、困っているお客さまの問題解決に寄与して暮らしを守るという、社会に貢献している実感を強く感じることができる仕事です。非常にやりがいのある仕事ですので、私たちと共に下水道を担う意欲のある仲間を求めているところです」と魅力を強調する。

1日のスケジュール

8:30	始業、朝礼
8:45	打合せ
9:00	メールの確認
9:30	業務資料作成 電話対応 現場立会
12:00	昼休み
13:00	現場確認 電話対応
16:30	業務資料作成
17:15	終業

安定した経営基盤で地域へ貢献

東京都水道局とともに歩んできた世界最高水準の水道事業を継承し、地域への貢献と自らの成長が両立できる企業です。

TOKYO WATER　東京水道株式会社

〒163-1337 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー37階　TEL(03)3343-4560(代)　https://www.tokyowater.co.jp/

東京水道グループ　東京都水道局が出資する会社です

▼採用情報